

交換留学（派遣）帰国報告書

留学先大学： ロンドン大学SOAS(東洋アフリカ研究学院)  
留学先での所属学部・研究科： Japan/Korea Exchange Program  
留学先での在籍身分： Exchange Student  
留学期間： 2014 年 7 月～ 2015 年 6 月  
神戸大学での所属学部・研究科： 人文学研究科  
学年（出発時）： M2  
本報告書記入日： 2015 年 12 月 25 日

1. 留学先大学について

1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日： 10 月 1 日

学年終了月日： 6 月 30 日

学期：

① 10 月 1 日～ 12 月 12 日

② 1 月 4 日～ 3 月 20 日

③ 4 月 20 日～ 6 月 30 日

④ \_\_\_ 月 \_\_\_ 日～ \_\_\_ 月 \_\_\_ 日

1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

大学名の通り、東洋・アフリカ研究が盛んです。  
特に、開発学、地域経済、文化人類学。  
日本学科は外国語学部の中でトップクラスの人気を誇ります。  
学生のレベルも意識も高いです。

1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート：

IELTSが基準に満たない場合、Pre-sessional Course受講と修了が義務(有料)。  
学期中もIn-sessional Courseが開講されている(無料だが抽選)。

勉学面でのサポート：

学内のサポートセンターが、論文の論立ての相談に乗ってくれる(無料だが文法チェックはしてもらえない)。各授業担当のオフィスアワー訪問が無難。

精神面でのサポート：

留學生担当者、チューター(教授)、授業担当を、予約して訪問できる。  
学内のカウンセリングサービスを利用することも出来る(無料、予約制)。

住居・生活面でのサポート：

日本人留学生は、ほぼ100%入寮できる。学内に住居探しのセクションがあったように思う。

課外活動のサポート：

SOASは学生の活動が盛んで、様々なsocietyが連日、様々な課外活動を企画している。

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。



はい



いいえ

## 2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気をつけること等)

大学寮をおすすめします。各国からのフラットメイトと友人になれ視野が広がるし、病気など緊急の場合は、同じ寮の日本人の友達に色々と頼んで対処できます。フラットメイト間のトラブル(隣人がうるさい、キッチンの使い方が悪いなど)も良い経験です。寮のスタッフからは、日本のように懇切丁寧なサポートを受けられることはない、心して臨めば、いくぶん楽な気持ちで寮生活が送れると思います。

## 3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

大学から勧められた損保ジャパンのもの

また、現地で加入した保険があれば、ご記入ください。

特にありません

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況：■日本から持参した □現地で購入した □保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否：■接続できた □接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

KeySurf (wi-fi)、無料

大学でのPCの使用の可否：■使用できた □使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

図書館やコンピュータールームに、日本語入力のできるPCが多数完備されている。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

食中毒と眼のトラブルで、日系の病院に行った。損保ジャパン保険で、治療費はキャッシュレスサービス、交通費や薬代も後日請求で全額支払われ、実質無料。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

イギリスは空気がかなり乾いています。乾燥に弱い人は、保湿できる環境づくりを。そして不衛生なレストランには注意を(私は食中毒になってしまいました)。

3-4. 銀行口座について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。

Citibank銀行を日本で開設しておいた。日本の銀行のカードも海外預金引き出しができる設定にした。現地の銀行にも口座を開設した。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

店では、店員さんにあいさつや返事をする、スムーズに事が進む。日本ではお客様第一主義だとすると、イギリスでは店員と客は対等だという考え方。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

寮清掃スタッフとの会話、講演聴講後のレセプションで出会った人との会話、スーパーやレストランのスタッフとの会話など

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

Color Runというマラソンイベントのボランティア、家庭教師(日本語)

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

大学と寮の周りの大通りは、真夜中でなければ、安全です。ロンドンが首都で観光地ということもあり、外国人嫌悪や差別も一切受けませんでした。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

していません(進学希望のため)

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

(財団等名) JASSO短期派遣 , 100,000 円/月

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

各種新聞(読み比べると傾向が分かって面白い)

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

100均で売られている小さな洗濯物干し(洗濯バサミ付きのもの)、カイロ

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：( 50 ) 点→帰国後( 80 ) 点

現地で生の言語をインプットし、頑張っアアウトプットもしたため、語学力は思ったよりも劇的に向上した。特にリスニングとスピーキング。

留学先での授業を通して、自分が興味を持っていることがはっきりして、大学院での研究テーマがより明確になった。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

11月に、食中毒で1週間嘔吐・下痢に苦しみ、寝込んだこと。渡航して以来ホームシックもなく順調に来ていたが、病気になったせいで、身体が日本と日本食を恋しがっていることを実感し、精神的につらくなっていた。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

授業の履修でトラブルがあった際にメールを差上げた時も、迅速に留学先とコンタクトをとってくださり、感謝しております。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

興味ややる気のある学生さんには、もちろん薦めます。いざ留学すれば、外国語で「生きていく」ことを通して、今まで見えてこなかった自分や世界が見えるようになり、考え方が変わることもあるので。その経験をぜひしてほしいです。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

（5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価）

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 5
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 3
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 4
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 2
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか： 3
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 3
- ・留学全体の総合的な評価： 4

### 授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも含 めて教えてください。
1	Practical Translation: English into Japanese	Dr Nana Sato-Rossberg	3	0.5	10	学部生の履修不可。英日翻訳の予習・復習・論文・テストあり
2	Practical Translation: Japanese into English	Dr Alan Cummings	3	0.5	13	学部生の履修不可。日英翻訳の予習・復習・論文・テストあり
3	Readings in Modern Japanese Literature	Dr Midori Tanaka Atkins	4	1.0	20	学部・院合同。日本文学の英訳を読んだり、英訳をしたりする。予習・復習・論文・テスト。
4	Memory and Militarism in Japanese TV Drama	Mr Andreas Kirsch	4	1.0	20	学部生向け。日本のドラマを2時間観て、2時間ディスカッションする。論文課題。
5						
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

少人数指導で、雰囲気もよく、ディスカッションで意見を出しやすかった。現地学生はみな意欲的だが、場を乱すほどの自己主張はせず、極めて良好な雰囲気で授業が進んでいった。学生は必ず宿題をしてくるので、忘れる学生は浮く。論文課題や期末テストのために、毎日図書館にこもって多くの文献を読む一年間だった。

### 費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

- ・航空運賃： 210,000
  - ・住居費：（月額） 110,000 ×（留学期間） 11 ヶ月 = 1,110,000
  - ・食費：（月額） 70,000 ×（留学期間） 11 ヶ月 = 770,000
  - ・保険料： 150,000
  - ・その他： 500,000
- 合計： 2,530,000 （留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。(800字～)

学部生の頃は、4年間で卒業し、地元に戻って高校英語教員になることだけを考えて、大学に通っていました。そのため、英語力をつける必要性を感じ、授業や短期語学留学を通して、日本でできる限りのことをやっていたつもりでした。しかし、目的通りいざ4年で卒業して、地元の高校で教え始めると、自分がいかに英語のことを知らないか、どれだけ英語を運用できないか、英語圏の文化についていかに無知か、一気に目の当たりにしました。学部生の頃の自分は、英語がなんたるかも知らない、井の中の蛙だったのだと気づきました。この状態が英語教師としての危機感をあおるきっかけとなり、「学部の際に、卒業が遅れてでも、1年の交換留学をしておけばよかった」という後悔の念を生み出しました。

結局、様々な事由で、高校教師を4年務めたのち、修士課程の院生として、再び神戸大学に戻ることになりました。留学しておけばよかったという後悔の念は、大学院に入っても消えることはなく、むしろより強まっていきました。英米文学を研究する上で、英語を読み、英語論文が書けることは、最低限のスキルであるにも関わらず、満足にできない自分が腹立たしかったです。また、英語圏に一定期間住んで、その土地の文化を肌で感じる経験も、英米文学研究者には、実質的に必須のものです。私には、英語圏で、英語を使って生活する経験がありませんでした。同級生や先生方には、そういった豊かな経験があることを受け、自分に対して危機感を抱きました。こうして、「大学院での研究のために、英語圏に留学し、より高い英語運用能力を今すぐつけたい」という願いは、どんどん増幅していきました。TOEFLやIELTSを何度も受け、高いお金を払ったのに、なかなか点数が上がらない期間は、非常につらく、無力感に苛まれました。だから、交換留学生として選ばれた時は、とにかく嬉しかったです。教師時代の後悔をもう味わいたくないと切望して、ようやくいただけた交換留学の機会を、絶対に濃いものにして、語学面も人間面も成長してやると、誓ったものでした。

がむしゃらに頑張った交換留学を終えて、英語運用能力は、自他ともに認める伸びを経験しています。そして、自分でも驚いたことに、「英語中心主義」を疑ってみるという視点も得ました。英語がある程度運用できるようになると、様々な外国語を母語として持つ人々と、英語で話すことができます。その対話を通して、英語が全言語の中心に据えられていることの功罪について、考えるようになりました。また、交換留学先で、強固な人脈も手に入れることができました。例えば、お世話になった教授を神戸大学に招き、シンポジウムをしていただくことができました。研究を進める上で、相談に乗ってくれる教授や友人ができました。交換留学を終えても、研究活動を通してつながっていられて、互いの研究をより実りあるものにできる、そんな恩師や仲間がたくさんできた、大切な留学経験となりました。このような貴重な機会を頂けたことに、感謝申し上げます。